

米国による戦争訓練である

沖縄駐留米軍の北富士移転実弾演習に反対する抗議声明文

一九九七年七月から「沖縄の痛みの分かち合い」を口実に行われている本土移転実弾演習。しかし、それ以降「沖縄県民の痛み」は解消されるどころか様々な強まり、全国に「痛み」と「危険」が拡散・拡大・深化させられてきているのが実態である。

近年の北富士演習場においては、二〇一八年九月、使用協定にはない英国軍との共同訓練が実施されて以降、同年一〇月、翌年四月と、沖縄駐留米軍の実弾演習が行われた。そして今回の移転演習は、二年ぶり一七回目となる。

このように、度重なる移転演習は、演習場を抱えてきた地域住民の思いを無視するものであり、何より、演習場の県是である『全面返還・平和利用』そのための『段階的縮小』を明らかに踏みにじり、形骸化を進めるものである。

これまでの演習で行なわれてきた夜間野営訓練、NBC（核・生物・化学兵器）訓練、そして、有事法制定以前から先取りし、行なわれてきた自衛隊と民間輸送機関の動員、地元住民の立入り日を変更してまでの連続演習。

さらに、二〇一四年八月から行われているオスプレイの離着陸訓練では、使用管理規則違反の訓練が行われたことも判明するなど、回を重ねるごとに規模や内容が拡大され、危険な戦争訓練となつてきている事は明らかである。

「平和の象徴」とも言われる世界文化遺産の富士山。その裾野で繰り返される実弾射撃演習は、「平和」とは遠くかけ離れ、春の訪れを感じに富士の麓を訪れる多数の観光客に、騒音など重大事故の危険をさらすものである。

我々、山梨護憲の集い実行委員会は、沖縄新基地建設や環境破壊の高江へりパッド建設に反対し、勤労者や国民の平和と民主主義、そして、国民生活の再建を進める立場からも、沖縄駐留米軍による危険な戦争訓練である、北富士移転実弾演習に強く反対し、抗議するものである。

二〇二二年 二月 三日

防衛省南関東防衛局 局長 小波 功 様

山梨護憲の集い実行委員会

代表委員

山 田

厚

代表委員

手 塚

仁

